



理念

「思うだけでなく、考えるだけでなく、語るだけでなく、祈るだけでなく、動けば変わる」を合言葉に、笑い楽しみながら活動します。

目標

MAKE THE HEAVENの目標は、

**世界中の子供達の笑顔を増やす事、森を増やして当たり前になる地球を残す事
そして、一人でも多くの人の心の中に元気や希望が増えるきっかけを創る事です。**

「一人の力は小さいかもしれない。しかし決して無力ではない」という思いから、みんなの「はじめの一歩」をサポートし、行動する人を増やす事によって、誰かが誰かの為に動き出すのが当たり前になる世の中を創り、地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やしていきます。いろんな活動を、正義感でやるのではなく、笑い楽しみながら行動する事で「いつのまにか誰かの為になっていた」そんな新しい常識を創りながら、一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯していきます。

概要

MAKE THE HEAVENは、東日本大震災をきっかけに活動内容を見つめ直し、未来への希望を増やすために今、MAKE THE HEAVENが出来る活動は何かを考えました。2011年は、本拠地を北海道に移転し「笑い楽しみながら」をモットーに新たなプロジェクトを立ち上げて活動しました。

■ 東日本大震災復興支援プロジェクト「め組JAPAN」

宮城県石巻市近郊および福島県で、被災地に笑顔を届けるために、人と人との繋がりを大切にして震災復興支援を行っています。

■ カンボジア支援プロジェクト「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」

カンボジア人の自立支援を通して、カンボジア人と日本人の心を繋ぎ、笑顔が増えるための支援をしています。

■ 植林・間伐プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も越え、皆で力を合わせて植林や森の手入れを実践しています。

■ 北海道プロジェクト

北海道の広大な自然に囲まれた中で、食料自給率100%と自然エネルギー100%自給を目指して、心も身体も自然も元気になる活動を行っています。

■ 啓発事業

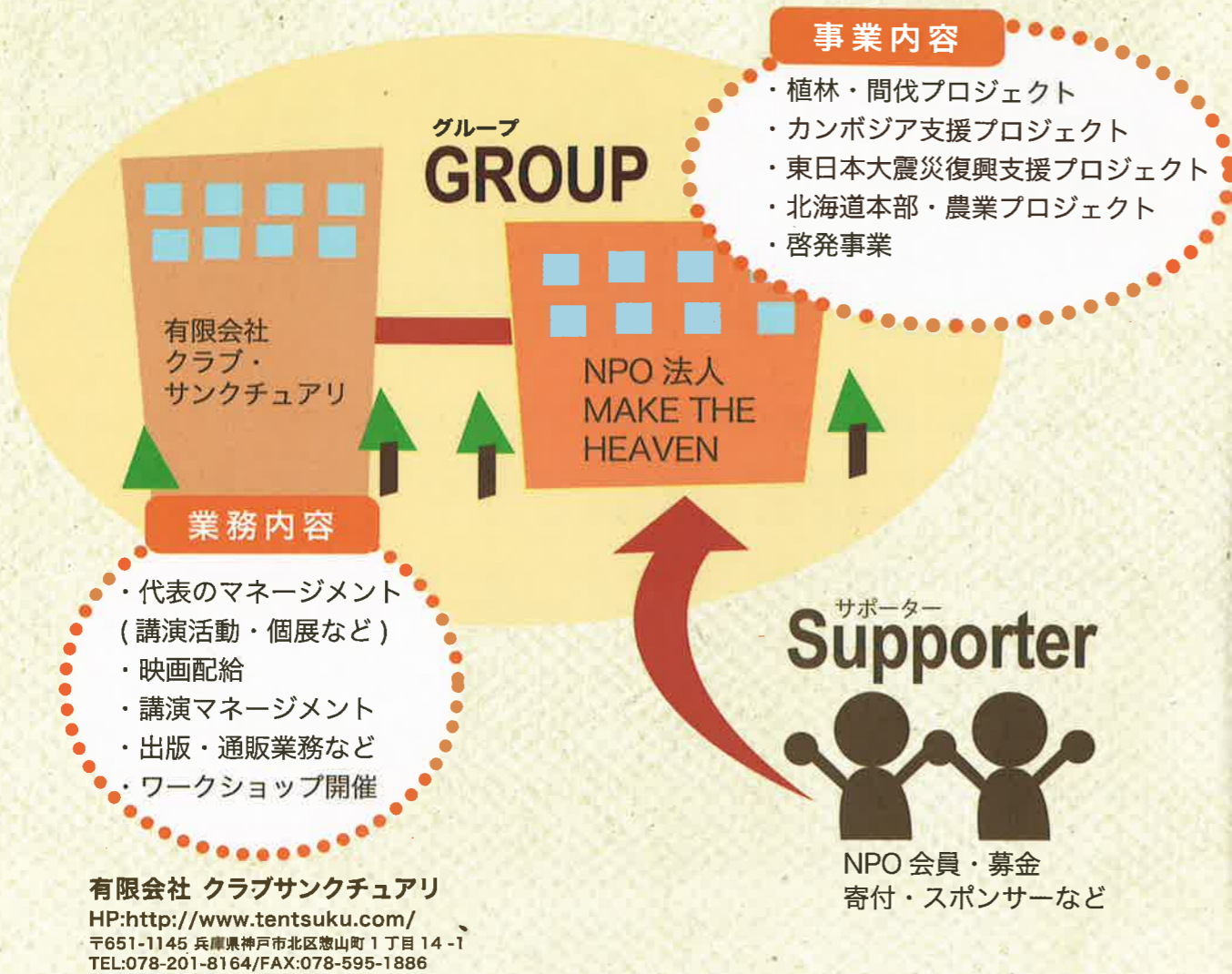
一人でも多くの人に、笑い楽しみ感動しながらはじめての一歩を踏み出してもらうために、音楽や映像制作、ライブ、ツアー、イベントなどを行っています。

足跡

- 2004年4月 NGO MAKE THE HEAVEN 設立
*環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集り NGO MAKE THE HEAVEN が誕生しました。
- 2004年3月 カンボジア井戸掘り支援スタート
*2011年までに、696基の井戸を届けることができました。
- 2005年4月 植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催
*2011年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、和歌山、熊本で計13回の国内外植林ツアーを行い、延べ2,195人に参加頂き、植林木数は47万本を超えました。
- 2005年11月 カンボジア支援プロジェクト発足
*プノンペンに事務局を設立し、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育里親支援をスタート。
2011年までに、2,867人の子供達が学校に通えるようになりました。
- 2006年1月 小豆島にてげんきのたねまきプロジェクト発足
*2011年5月末を持って、6年間の活動を終了しました。2011年までに、延べ1万人以上の方が参加してくれました。
- 2008年11月 植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一円募金プロジェクトを開始
*2011年までに、837名(チーム)の一円ヒーローが誕生しました。
- 2009年11月 当法人理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1~天国はつくるもの~Part2」が完成及び公開
*2011年までに、同映画パート1と合わせて自主上映による観客動員数が18万人を突破しました。
※配給は有限会社クラブ・サンクチュアリ
- 2010年4月 間伐ツアー開催
*2010年に静岡、山梨、熊本、奈良で計5回間伐ツアーを行い、延べ277人に参加頂き、629本のスギ、ヒノキを間伐しました。
- 2010年5月 ロックバンドおかんと専属事務所契約
- 2010年8月 NGO から香川県の認定非営利活動法人(NPO 法人)に認定登録
- 2011年3月 東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足
*2011年で延べ13,000名以上のクルー(現地ボランティア)が参加してくれました。
- 2011年5月 NPO法人MAKE THE HEAVEN本部事務所を北海道に移転
- 2011年7月 被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催
*2011年は185名の親子が参加してくれました。
- 2011年6月 送電線国有化のための署名募集開始



事業内容



MAKE THE HEAVEN 役員名簿

理事長	軌保 博光	有限会社クラブ・サンクチュアリ代表取締役
理事	中村 文昭	有限会社クロフネカンパニー代表取締役
理事	大嶋 啓介	有限会社てっぺん代表取締役
理事	奥芝 洋介	株式会社NEXT LEVEL代表取締役
理事	松岡 宏樹	株式会社俺ん家のめし代表取締役
理事	川島 肇子	特定非営利活動法人MAKE THE HEAVEN 副理事長
理事	栂島 実	有限会社クラブ・サンクチュアリ取締役営業本部長
監事	二瓶 明	サンクチュアリグループ監査役・統括経理

被災者への
笑顔の
サポート

め組 JAPAN

 **Pray for JAPAN**
東日本大震災復興支援プロジェクト

活動概況

2011年3月11日14時46分、東北地方を中心に各地で大規模な地震が発生し、地震、津波、そして福島第一原子力発電所の事故によって人も自然も甚大な被害を受けました。地震発生直後、全国から過去に3度結成された緊急災害復興支援チーム「め組」の再結成を望む声を頂き、東日本大震災復興支援チーム「め組JAPAN」を発足しました。当プロジェクトは、宮城県石巻市を中心に、物資の配給や泥・瓦礫撤去などの物理的な支援だけではなく、大切な家族や生活の場を失って虚しさや孤独を感じている方々に生きる希望を持ち続けてもらうために、生活自立支援や仮設住宅・在宅被災者への個別訪問などを通して、被災地の方々と交流し繋がってとことん寄り添う心の支援を大切にして、地元の行政や民間団体、全国のボランティア団体と連携しながら復興支援活動を行っています。また福島県でも、物資の配送や除染活動、一時的に福島から出て心と身体を元気にする保養プログラムなど、福島に笑顔を届けるための復興支援活動を行っています。

2011年は、日本中、そして世界各地の方々から支援金や物資のサポート、そして現地での復興支援活動に参加して頂き、石巻市や福島県で生活する方々に笑顔と元気を届ける事が出来ました。



足跡

- 3月14日 め組 JAPAN 発足
- 3月15日 め組 JAPAN 先発隊、宮城県仙台市に到着
- 3月16日 め組 JAPAN 先発隊、宮城県石巻市に到着し救援物資の配給活動開始ホームページを立ち上げてクルー(現地ボランティア)の受け入れ開始
- 3月18日 石巻専修大学に事務局を設置 避難所・避難集落の現状聞き取り調査活動開始
- 3月19日 全国から届いた物資の配給開始
- 3月20日 石巻災害復興支援協議会(旧:石巻支援連絡会)に加入 炊き出し活動開始
- 4月2日 泥出し・震災ゴミ撤去活動開始
- 5月3日 希望の種まきイベント「SEED'S OF HOPE」を開催
- 5月末 ベースキャンプを宮城県登米市に移転
- 6月 子供達への支援や仮設住宅の訪問など、寄り添い活動開始 福島で除染活動を開始
- 6月 郡山市の薫小学校、たから幼稚園、あさひが丘保育園 須賀川市のすぎのこ幼稚園、プリムラ保育園にて除染活動開始
- 7月 8種類の資材を使った除染実験を開始 被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催
- 8月 大阪のNGO心援隊と「西表島☆わくわくHAPPY疎開ツアー」を実施
- 9月 農地、個人宅などの除染を実施、避難・疎開・保養などの相談窓口を開設
- 12月 はッピーあいらんどフェスティバルにて避難・疎開・保養の資料配布

■ 宮城県石巻市内、石巻市近郊での復興支援

宮城県石巻市は、東日本大震災による地震と津波の被害が特に大きかった地域の一つで、特に津波と河川の氾濫により、沿岸部や河川沿いは壊滅的な被害を受けました。2011年末の時点では多くの市民が半壊住宅や仮設住宅での生活を余儀なくされています。震災直後は、物資の配給、捜索・情報収集、泥や瓦礫の撤去作業、炊き出しなどを行い、ゴールデンウィークには被災地を明るくするためにたくさんのひまわりを植えました。また、それをきっかけとして避難所や仮設住宅でのコミュニティ形成支援、子供達の学習支援・遊び場づくり、自立支援などを行いました。

■ 物資管理・配給

3月16日に石巻市に入ってまず最初に始めた活動です。震災発生直後は、ラジオや懐中電灯、食料、衣服、毛布などを中心に、その日その日を生き抜くために必要な物資を届けました。また、全国からたくさんの物資が届くようになってからは、それぞれの避難所や住宅ごとに必要な物資を届けるだけでなく、近所同士で必要な物資を取りまとめてもらい、まとめて配達することで震災以前はあまり付き合ひのなかった方々が互いに助け合うきっかけを創りました。また、石巻専修大学にある全ボランティア団体共有の救援物資倉庫の管理を他のボランティア団体と協力しあって行いました。



■ 捜索・聞き取り調査

石巻市内でボランティア活動を開始してすぐに、被害地域の範囲が広すぎるために被害状況が把握できていないことが分かりました。そこで、行政や民間団体、全国のボランティア団体と連携して、孤立している被災者の捜索や、住宅や避難所の全戸聞き取り調査を、他の活動と連携して行いました。



■ 炊き出し

震災発生直後、市民はパンやおにぎり、カップラーメンやお菓子など、偏った食事を余儀なくされていたため炊き出しによって栄養豊富な温かい食事が必要でした。め組JAPANでは、ボランティアが炊き出しを行って食事を提供するだけでなく、地域の方々と一緒に料理をしたり、食材と調理器具を届けたりして、各地域や避難所の方々が中心となる炊き出しを行い、市民同士が繋がり助け合うきっかけを創りました。



■ 泥出し、震災ゴミ撤去

震災で発生した大津波によって、沿岸部や河川沿いの建物は全壊・半壊し、道も建物も泥に覆われてしまいました。時間が経つにつれて泥が固まり臭いも酷くなるため、4月に入ってすぐに、ボランティアセンターや各ボランティア団体が多くの人手を泥出しと震災ゴミ撤去活動に当てました。め組JAPANも担当となった石巻市湊地区を中心に、毎日50人～100人単位で泥出し作業を行いました。5月末を境に大規模な泥出し、震災ゴミ撤去作業は終わりを迎えましたが、現在も住民からの要望に応じて泥出しや震災ゴミ撤去を行っています。



■ ひまわりプロジェクト

ゴールデンウィーク期間中の5月3日から、被災者の方々に少しでも笑顔と元気を取り戻してもらうために、津波やヘドロで色を失ってしまった街にひまわりを植えるプロジェクトを行いました。「SEED'S OF HOPE」と名付け、3,000個のプランターと15トンの土、10万粒以上のひまわりの種を用意して、石巻市、南三陸町、福島県でひまわりを植えました。プロジェクト発足当初は、緊急を要する支援がまだまだたくさんある中で、ひまわりを植えてもいいのだろうか？本当に被災者の方々の笑顔に繋がるのだろうか？といった反対意見もありましたが、実施後には「ひまわりが育つのが楽しみになって生きる希望が見つかった」「みんなでひまわりを植えて久しぶりに笑顔になれた」と多くの方から幸せの声を頂き、夏にはたくさんのひまわりが咲き誇って、悲しみ溢れる町並みが色を取り戻し、黄色の希望溢れる町並みに変わりました。



■ 仮設住宅・在宅訪問

ひまわりプロジェクトや震災直後から行った活動を通して生まれた住民の方々との繋がりを活かして、6月頃から仮設住宅や被災した住宅への訪問活動を行っています。仮設住宅では、談話室や集会所を利用したお茶会などを行って、別々の地域から集まった方々が繋がってお互いに助け合うためのサポートを行っています。また、定期的に各住宅を訪問させて頂いて、話を聞かせてもらったり、時には一緒にお茶を頂いたりして、被災した住民の方々に寄り添うことを意識しながら心のサポートを行っています。一人でも多くの方の孤独感や虚無感を取り除くために、これからも仮設住宅・在宅訪問を続けていきます。



■ 子供サポート

震災後、学校が被災して使えなくなったり避難所になったりしたため、学校に通えない子供達が生まれました。また、仮設住宅を建設するために、たくさんの公園や広場といった子供達の遊び場が失われてしまいました。そこで、子供達への学習支援と子供達の新たな遊び場作りを行いました。遊び場では、大人が決めたルールの中で遊ぶのではなく、子供たちが主体となって自由な発想で毎週土日に一緒に楽しく遊んでいます。



■ 生活自立支援

震災後、多くの被災者が仕事を失ってしまいました。め組JAPANでは、一人でも多くの方に仕事を再開して頂くための支援活動を行っています。9月にはわかめの定着作業のサポートをした他、定食屋さんや焼きそば屋さん、水産加工屋さんなどの事業再開のサポートを行いました。また、石巻市のお母さんたちへの生活支援として手芸教室を開催し、お母さん達がみんなで集い楽しみながら一つ一つ手縫いで作っている「こまっちゃぐれタオル」を、10月からイベントや講演会、MAKE THE HEAVENの通販などで販売を開始しました。



■ その他の活動

め組JAPANは他にも、湊小学校での避難所環境の改善やお茶出し、卒業式・入学式のお手伝い、悪臭改善のための土壌菌・竹炭散布、避難所や住宅に発生したダニの駆除、悪条件での生活に疲れた方々へのマッサージや足湯、被災地を離れて心と身体を元気にしてもらうための疎開プロジェクト「洞爺バケーション」音楽ライブや祭事に合わせての復興支援イベントの開催など様々な活動を行いました。また、他の団体が支援に入る際の現地コーディネイトや全国での活動報告会なども行い石巻の方や東北を応援したいと望んでいる全国の方々からの要望に答えて、東北に笑顔と元気を届けることができました。



め組JAPAN

東日本大震災復興支援プロジェクト 2011年事業報告

■ 福島県での復興支援

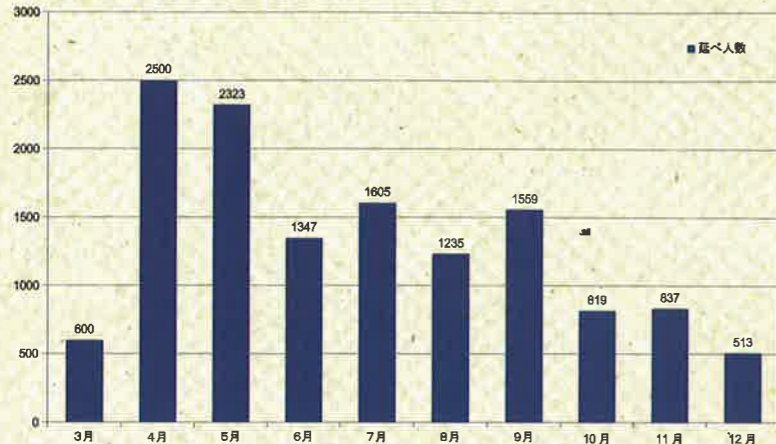
福島県は、東日本大震災の地震・津波による被害だけでなく、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染という深刻な被害が生じました。震災当初から放射能汚染の恐怖により救援活動が遅れ、2011年末になっても、福島の方々は目に見えない放射性物質に怯えて暮らす生活が続いています。め組JAPANふくしまでは、震災当初はいわき市や相馬市周辺地域を中心に、被災者の方々に水や食料、衣服などの生活用品を届けました。そして、緊急を要する支援活動がある程度落ち着いてきた後は、福島の大地や福島で暮らす人々、福島で生活する未来ある子供達を少しでも汚染被爆による被害から守るため様々な方法で除染活動を行いました。除染活動では、放射性物質を分解出来る可能性があると言われていた水、無償で提供して頂いた土壌菌や炭など様々な方法を用いて、郡山市の小学校、幼稚園、保育園などに散布してもらいました。土壌菌に関しては、散布した土は回収され、実験を行っていた汚染土も撤去されたため、実際にどのくらい抑制効果があったのかは分かりませんが、福島に希望を届けるために今後も除染出来る可能性のある方法で実験・散布を続けています。また、夏休みには大阪や北海道に福島の子供達に一時疎開してもらい、心も身体も元気になってもらうための保養プログラムも行いました。除染にはかなりの時間と費用が掛かるため、今後は、休日や長期の休みを利用して少しの期間だけでも汚染地域から離れもらい、のびのびと安心した時間を過ごせるプログラムを企画して、重点的に行っていきます。子供達は国の宝、日本の未来です。子供達が健やかに育つ事を祈りつつ、め組JAPANふくしまは子供達の笑顔を守るために、今後も自分たちの出来る事をしていきます。どうぞ応援よろしくお願い致します。



■ クルー（現地ボランティア）の延べ人数

め組JAPAN宮城は、全国からお手伝いCREWを募って日々の復興支援活動を行っています。2011年は、全国から延べ13,000名以上の方がお手伝いCREWに参加してくれました。

クルー延べ人数の月別推移表



3月: 約600名 8月: 1,235名
 4月: 約2,500名 9月: 1,559名
 5月: 2,323名 10月: 819名
 6月: 1,347名 11月: 837名
 7月: 1,605名 12月: 513名
 合計: 約13338名

※プロジェクト発足当初は、現地の通信交通・生活環境や余震の発生などの理由で、受け入れの中断や延期、活動の変更や休止などがあったため3,4月の延べ人数には若干の誤差があります。

め組JAPAN 活動内容一覧

活動内容	チーム名	発足日	終了日	活動概要
避難所生活支援	湊小学校チーム	3月16日	4月中旬	湊小学校避難所の環境改善、避難所のコミュニティ形成支援
物資管理・配給	調査・配達チーム	3月17日	3月31日	非指定避難所や自宅避難者の情報を収集し、救援物資を配達
捜索・聞き取り調査	調査・ローラーチーム	4月1日	4月26日	非指定避難所や自宅避難者の情報を収集し、他のチームに伝達
	物資班	3月16日	5月中旬	救援物資の管理、物資倉庫の整理、各チームに必要な物資の受け渡し
炊き出し	炊き出し班	3月20日	5月23日	避難所・自宅避難されている方々への炊き出しとコミュニティ形成支援
泥だし・震災ゴミ撤去	マッスル班	4月2日	7月29日	泥だし、ガレキ撤去、側溝掃除などの肉体力労働班。ヘロヘロチームに統合
	ヘロヘロチーム	5月24日	8月31日	地元の方から上がってきた様々なニーズを受けて支援する何でも屋さん
	Hero'sチーム	9月1日	継続中	ヘロヘロチームから改名。ニーズに対し、その時、必要と思われる支援を提供
	重機班	4月上旬	9月上旬	重機車両を使用し、人力では出来ない震災ゴミの撤去
生活改善支援	エンジンカッター	5月中旬	6月中旬	エンジン付き削岩機を使い、震災で崩れたブロック壁などの撤断
	竹炭・土壌菌班	4月14日	継続中	悪臭や病原菌が発生しないように竹炭・土壌菌を散布
	ダニース	5月31日	9/31	ボランティア団体の合同チーム。ダニの駆除など避難所の環境改善
	医療チーム	3月下旬	5月上旬	医療資格者を別のボランティア団体が結成している医療チームに派遣
リラクゼーション	4月中旬	継続中	マッサージ、整体、アロマセラピーなど、専門技術者による身体と心のケア	
ひまわりプロジェクト	ひまわりチーム	4月中旬	5月上旬	ひまわりプロジェクトの準備、ひまわりの種・プランター・土の配達
仮設住宅・在宅支援	SEEDS OF HOPE	4月20日	継続中	ひまわりプロジェクトで生まれた繋がりを活かした在宅支援
	お茶っこcafeチーム	8月20日	継続中	仮設住宅の集会所でお茶会を実施し、コミュニティ・自治会形成支援
子供サポート	キッズチーム	7月上旬	継続中	地域の方と協力し、子供たちの学習支援や遊び場づくり
生活自立支援	モノ作りチーム	7月10日	継続中	コミュニティ形成支援地元のお母ちゃん達の手芸会「おだってばりい」の運営サポート
クルーの生活支援	エンジェル班	4月下旬	継続中	め組のベースの環境整備、クルーのご飯作り
行事・イベント	大原小学校入学式班	4月下旬	4月下旬	大原小学校の入学式の準備、手伝い
	湊三陸お手伝いチーム	5月上旬	5月中旬	南三陸町の復興市の準備、手伝い
	アートプロジェクトチーム	5月28日	8月11日	スプレーアート、似顔絵、筆文字の書き下ろしなど
	ロックフェスチーム	7月10日	8月12日	8月10日に行われた石巻でのライブイベントの運営サポート
	Xmas OF HOPE	12月19日	12月25日	全国から届いたメッセージカードを配達、ハンドベルで市内を巡回
全国活動報告	活動報告班	3月25日	継続中	全国各地で活動報告会を開催

★お手伝いCREWさんの声★

女性 20代

め組JAPANに参加して、私は始めてボランティア活動をさせていただきました。何もわからないまま泥出しをしたり、沢山の方々とお話をさせていただくうちに、気付くと「被災地」「被災者の方」という今までの目線から「大切な場所」「大切な人達」に変わっていました。その大切な人達に元気に笑顔で過ごしてもらいたい。その大切な人達と一緒に笑顔でいたい！ボランティアをした事がなかった私が3ヶ月に渡り活動させていただけるのは、石巻が私にとっての「特別な場所」「大好きな人達」に変わったからです。なので私は「ボランティアに参加する」というより「大好きな場所で大好きな人達と笑顔で過ごす」という気持ちで、これからもボランティア活動を続けていこうと想います。

男性 30代

僕は、め組JAPANで初めてちゃんとしたボランティア活動に参加させてもらいました。ある程度長い期間活動させてもらったので、いろんな活動を通じてたくさんの人と出会い、様々な体験をして、多くの事を感じさせてもらいました。め組で過ごした時間は自分の人生の中で間違いなく大切な物となると想います。「一人ひとりの力は例え微力でも無力ではない」忘れる事のない言葉の1つになりました…。

男性 20代

東日本大震災から1年。徐々にメディアでも取り上げられなくなってきているのが今の現状ですが、現地はそんなことなく、今もなお瓦礫撤去が終了していない小学校付近を見たとき、私は「言葉が出ない」ということの本当の意味を知ったような気がしました。大勢の笑顔と活気が溢れていた場所が何も無い場所へと変わってしまったことに無念を覚えました。この現状を少しでも多くの人達に伝えて行くことが一番のボランティアだと私は思います。

男性 20代

め組JAPANのボランティアに参加して、人の役に立つことがすごく身近に感じられるようになりました。それまでは、ボランティアというと批判されることもあるし、やりにくいものだと思認識していましたが、実際に現場でいるいるな作業にあたるにつれて、人の役に立つことは誰にでもできるということ、確信するようになりました。お金があればお金を、力があれば力を、お金も力もなければ、元気を出して隣の人を元気づけること、それだけで「ボランティア」になるんだと思います。

男性 30代

め組JAPANでのボランティア活動を通して、多くの方々と出会いました。現地の方々はもちろんのこと、自分以外のボランティアの方々、それぞれ様々な人間模様が伺い知れます。そのなかでそれぞれの想いや感性に触れさせていただいています。特に感謝の想いに触れることが多く、現地の方々やボランティアを含めて広がる「感謝」の繋がりは私自身にとっても素敵な世界観を与えてくれました。ありがとうございます！

女性 20代

4,5月にボランティアの拠点となっている専修大学で、私はボランティアへの炊き出しをしていました。そこには、夜になると日中泥出しなどの活動をして疲れ切ったボランティアの人達が、温かいご飯を求めてたくさん集まりました。日中はベース内で活動することが多く、泥出しなどで尽力する事は出来ませんでしたが、夜間の炊き出しでいつも笑顔と元気であるような心がけました。すると、炊き出しをする場所で賑やかな輪が広がり「これで明日も頑張れる!」と、多くの方がとてもいい笑顔で喜んで帰ってくれました。直接被災者の方には関われなくても、自分が一生懸命に頑張っているとそれが他の方の活力となり被災者の方にも伝わる。隣の人の力になることが思いを届けたい人の力に必ずなる!と実感しました。この思いを伝えてくれたことが本当にありがたいです。

★被災地の方々の声★

男性 Sさん

最初め組と出会ったのは牧山社務所だったね。ここは指定の避難所になっていないから、物資や探す人もなかなか来なくて、そこにめ組が来てくれたんだよね。それから2011年の4月末に、ひまわりの種をわざわざ持ってきてくれて、正直まだ植えるどころじゃなかったけど、3,000本の苗をポットで育てて、中央分離帯にみんなで植えたんだよ。今、家の近くにも花を植える予定で、ひまわりでもコスモスでも植える許可をもらっているんだよ。家に鉢を置く場所がないから、いろんなところにみんなで植えて、みんなで育てて、花が咲いたら友達にも分けて、やった分だけ喜ばれて。津波でいろいろ流されたけど、家を離れても、大好きな花と花で繋がった人たちがいて、喜びがいっぱいあるんだよ。震災が起きてから、日本全国にずいぶんたくさんのお孫が出来たなあ。め組の子たちもいっぱい来てくれて、孫たちに囲まれて本当に幸せだなあ。本当に花に勝る喜びはないね。

女性 Kさん

震災のときは鹿妻小に居て、ロウソクでもいいから灯したほうがいいよって言われて、家の2階に帰ってきて、1ヶ月間家を掃除したの。夜は怖くて家を出れなくて、日中は物資や炊き出しをもらいに行き、7月にやっとちゃんとしたお風呂入られて。そういう生活をしてきたから、今は物作りに行けて本当に幸せです。震災前はあいさつ程度だった近所の人や、物作りに行くようになってからは、毎日会って、話して、一緒に物作りをしてね。最初は数人だったけど、どんどん人数が増えてきて、今はタオルをみんなで作ることが凄く楽しいんです。ボランティアの皆さん、遠くから来てくれてありがとうね。ボランティアさんが来てくれなかったらどうなってたろう。本当にありがとう。



MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

CAMBODIA

カンボジア支援プロジェクト

活動概況

今カンボジアでは、首都プノンペンなどを中心に目覚ましい経済成長をしている一方で、学校や井戸の不足、貧富の差の拡大などにより、雇用を得るために必要な「教育」が受けられない子供達がたくさんいます。

当プロジェクトは、お預かりしている支援金がどんな笑顔に変わっているのか「見える支援」を大切にしながら教育支援や井戸掘り、スラムや孤児院の自立支援などを通して、子供達の人生の選択肢が増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔が増えるきっかけを創り、お互いに成長していける活動をしています。2011年度もたくさんのご支援を頂き、各プロジェクトを遂行出来ました。また、たくさんの日本人がカンボジアを訪れ子供達のキラキラな笑顔に出逢って、一緒に楽しく交流する事で、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔を増やす事が出来ました。



足跡

- 2004年 バサックスラム支援開始
- 2004年 スタディツアー開催
2011年までに、計18回のツアーを行い、延べ404人に参加頂きました。
- 2004年 井戸支援開始
2011年までに、696基の井戸を掘りました。
- 2005年 奨学金制度パバママ支援開始
2011年までに、2,867名の子供を支援しました。
- 2005年 第1回ジャパンツアー開催
2010年までに、計4回のツアーを行いました。
- 2005年11月 カンボジアにプノンペン事務所設立
古長靴400足をごみ山で生活する子供達にプレゼントしました。
- 2006年3月 ブレイ克蘭村に学校を建築し、開校式を実施
- 2006年6月 バサックスラム移転時の緊急支援実施
- 2007年10月 第1回パバママツアー開催
2010年までに2回行い延べ32人に参加して頂きました。
- 2007年12月 クロサン村に学校を建築し、開校式を実施
- 2008年 クラチェ地方に溜め池完成
- 2009年 バサックスラム幼稚園建築
- 2011年 くっくま孤児院運営開始



■ プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

プノンペン市内の急速な経済発展により、貧富の差が激しくなり、生活が厳しい子や学校に通う事が困難な子供達がまだまだ沢山います。孤児院の運営、奨学金制度、スラムと他孤児院の支援、ごみ山の小学校へのお米支援など、プノンペンでは主に子供に笑顔が増えるサポートをしています。

くっくま孤児院運営

2009年から、カンボジアの孤児院で育った踊りの先生たちが、かつての自分たちと同じ境遇の孤児の子供達を集めて孤児院を始めましたが、当時24人いた子供達の食費を捻出する事も困難になり、孤児院解散の窮地に追い込まれていました。そこで、踊りの先生たちの頑張りを応援したい、素直で元気いっぱいの子供達を応援したいと思い、2011年から、MAKE THE HEAVEN CAMBODIAの孤児院として先生たちと共同運営を開始しました。いろんな環境で育ってきた子供達は、くっくま孤児院で、毎日ご飯が食べられ、毎日水浴びが出来て毎日学校に通えて、毎日寝る場所がある。そんな当たり前の事に心から幸せを感じ、日々笑顔で楽しく生活しています。その笑顔は、施設を訪れたみんなを幸せにしてくれています。現在は26人の子供達と、踊りの先生4人とスタッフ5人が、一緒に生活しています。元気で素直な優しい子供達と、その子供達を愛して一生懸命運営しているカンボジアの大人たち、ここには素敵な笑顔が溢れています。

2011年からは、くっくまファミリーの各サポートコースをスタートして、毎月の食費や生活全般・教育の支援を行っている他、スタッフや子供達で作る箸袋(フェアトレード商品)を日本で販売し、自分たちの力でも孤児院を運営出来るようにサポートしています。また、2011年11月には、多くのご支援を頂いて新しい土地と建物に移転し、自給自足を目指して庭で子供達が野菜やニワトリを育てています。2012年も子供達を応援する家族を増やしていきます。

※くっくま孤児院の正式名称:CCMHA(Cambodia's Children Make the heaven Association)孤児院

■ くっくま孤児院運営費内容

運営費:毎月約1,500\$

内訳:土地代500\$・お米400キロ・おかず&調味料500\$・学校費用(試験代など含む)100\$

病院代・洋服や制服などの衣類・伝統舞踊の楽器や衣装・歯ブラシやせっけんなどの生活用品・文房具など

※水道・電気代は、子供達がカンボジアの伝統舞踊を踊って頂いた募金で支払っています。



パパママ大作戦!奨学金制度

2005年の13人からスタートしたパパママ大作戦は、2011年で7年目を迎え、パパママの皆様のおかげで、プノンペン市内&近郊の貧困家庭の子供達の学校に通いたいという夢が叶えられ、安心して勉強を続ける事が出来ています。奨学生の写真付報告書や、本人からの手紙のお届けなど日本のパパママとカンボジアの我が子が繋がり、家族のような温かい心の交流が出来るようにお手伝いをさせて頂いています。また、新学年がスタートする10月にはパパママが出席出来る認証式を行っている他、パパママがカンボジアを訪ねてきてくれた際には、いつでもわが子に会う事が出来るようにコーディネートを行っています。2011年度は継続も合わせて555人の子供達が奨学金で学校に通う事が出来ました。



■ バサックスラム寺子屋・幼稚園支援

カンボジアを支援をするきっかけとなったのが、バサックスラムとの出逢いでした。バサックスラムには2005年から毎月支援を行っており寺子屋の毎月の食費(米米マン・おかずマン)や、運営する先生方のお給料、幼稚園の校舎設立、伝統舞踊の衣装や化粧品などの支援などを行った他、緊急時の医療費などのサポートも必要時に行いました。また、2010年に行ったジャパンツアーの際にお預かりした支援金で2011年にスラム内に食堂が完成しました。

■ 米米マン・おかずマン

共に、毎月20,000円ずつの支援をしています。

※ジャパンツアー:バサックスラムの子供達を日本に招待して全国5会場で日本人とカンボジアの子供達が交流して笑顔と元気をプレゼントし合ったツアーです。



NCCLA孤児院支援

プノンペン市内にあるNCCLA孤児院を運営している夫妻との出逢いを、私たちカンボジアスタッフは奇跡と呼んでいます。素晴らしい2人から色々な事を学びながら子供達への支援と交流が続いています。定期的に物資を送ったりスタディツアーの際に夫妻が運営するレストランやクッキー屋さんを訪れたりする事で、自立支援を支えています。

2011年のバレンタインの時期にはこのクッキーをMAKE THE HEAVENの通販で販売しました。また、東日本大震災の後日本が大好きなNCCLAの子供達はみんなでクッキーを焼いてプノンペン市内で売り歩き、募金箱を作って募金を集めてくれました。250\$の募金と沢山のクッキーを東北のみなさんへ届けてくれました。

ごみ山の小学校へのお米支援
日本からの物資支援

スタメンチャイ地区にある、今はもう使われなくなったごみ山の中に小学校があります。2011年は、そこへ通う子供達に、毎月お米を一人5キロずつ、合計で1,500キロ分のお米を支援しました。今後も、家族みんなが幸せになる支援を今後も継続していきます。また、スタディツアーの際に日本から支援物資をお預かりし、古着や文房具などを各支援先の子供達へ渡しています。



■ プレイヴェン州プレイクラン村&村近郊での支援

村支援で最重要課題が「自立支援」に向けての取り組みです。はじめの一步をお手伝いする気持ちで、井戸掘りや学校建築、田んぼ多期作への挑戦やフェアトレード商品の作成などを、村の人たちと協力し合い、共に勉強を重ねながら支援しています。

まいど大作戦！井戸掘り支援

2011年は、個人、会社、お店、ボランティア団体の他、結婚式の引き出物などで募金して下さる方や、小・中学校の子供達など、様々な方に井戸掘り支援をして頂き、新たに120基の井戸を掘る事が出来ました。これまで貧しい農村地では、綺麗な水を使えなかったり、遠くから水を運んで来たりしていました。井戸が出来た家族は本当に喜んでくれて、子供達も服を着たまま水浴びをして楽しんでくれています。なによりも、重労働である水運びから開放されて、子供達が学校に通えるようになったり、畑を作れたりと生活自体が大きく変わっています。井戸掘りと平行して、今まで掘った井戸のヒ素を中心とした水質検査(累計500箇所)も行い、基準値をクリアした安全な水を提供出来るよう、メンテナンスも視野に入れた支援を行っております。また、スタディツアーや村へのホームスティをする際には、井戸掘りを日程に組み入れており、水の出た喜びを一緒に分かち合える貴重な体験が出来ます。

学校建築事業

プレイクラン村を始めて訪れた際に、子供達が民家の軒下でぎゅうぎゅうになって勉強している様子と出会った事をきっかけにして、2006年にプレイクラン村に村人の手作りです3教室の校舎を建築しました。基本的に幼稚園～小学校3年生レベルまでの子が通い4年生からは公立の小学校に通っています。2010年には支援によって校舎の建替えを行い、レンガやコンクリートで建てられた校舎が完成しました。また2011年は毎月7回、学校の子供達におかゆ給食を提供しました。



プレイクラン村自立支援

フェアトレード ■ ■

2011年は、プレイクラン村のお母さんたちが、フェアトレード商品として「箸袋」を1,800枚作り、日本で販売しました。お母さんたちの生活費補填になる他、学校の先生たちのお給料も生み出しています。今後も、村全体の自立に向けて、村人たちの努力に協力する形で新商品開発をしていきます。

田んぼ多期作計画 ■ ■

2010年に、プレイクラン村にトラクター耕耘機と農業用井戸をプレゼントしました。乾季にも農業が可能になり、年に2～3回お米が収穫出来るよう、村の人たちと勉強会を重ねながら取り組んでいます。また、耕運機を近隣にレンタルする事でレンタル料を村の収入源のひとつとしていく事も考えています。2012年は、多期作で出来たお米をプノンペン市近郊の支援先に届けて、お互いに助け合う関係を創っていく予定です。



スタディツアー&現地コーディネーター&日本語教師インターン

これまで、2004年から述べ18回のスタディツアーを行いました。2011年は2回開催し、沢山の方がカンボジアに来て、各施設の子供達との交流や、村でのホームスティ、井戸掘り体験などをしました。カンボジアの子供達と一緒に生活する事で今を一生懸命生きる子供達の笑顔に癒され、刺激をもらい、最終日には何人もの参加者さんが涙を流して帰っていきます。スタディツアー以外にも、友人を連れ立ってのミニツアーや、個人旅行の延長でのカンボジア訪問などのコーディネーターも随時行い、学生さんの卒業旅行や、会社での社員旅行にも利用して頂きました。また、日本語教師のボランティアが子供達へ日本語教室を開催したり、美容師さんが青空カットをしてくれたり、似顔絵を書いてくれたりするなど、訪問者の特技を活かしカンボジアの子供達も喜ぶ交流を行いました。



女性 20代

初海外で、カンボジアに来ました。なにもかも初めてなので、いろいろ不安もありましたが、来てみて感じたのは「全然遠くを感じない。住める場所!!」たくさんのツアー参加者もいるからか、日本にいる時と変わらず自然体で過ごせました。ツアー参加者のみなさんも、スタッフさんも、ずっと前から知っていた仲間みたいに仲良くなれてすごく楽しかったです。子供達との交流はとってもたのしくて、ずーっと子供達と過ごしていたかったです。またかならず、子供達に会いに来ます。

男性 30代

めちゃくちゃたのしかった。笑った。笑いすぎた。幸せ。心から幸せ。色々あるけど、きっとシンプル。これからも、みんなで笑いあいたい。そのために出来る事をがんばる。「日本で頑張ってるね」って言ってくれた。頑張ってる子たちに頑張らせてと言われると頑張るでしょ!!!って思った。人を応援するって事はきっと自分が一番頑張る事なんだ。俺が一番頑張る。みんなを応援するために俺が一番頑張る。

女性 10代

子供達は初めて会った私にもすぐハグをしてくれて、若さには完全に負けたけど、自分も子供にかえったように汗をかいた。そんな風と一緒に遊んでると通じ合ってる気がした。言葉は全然わからなかったけど、子供達も私も全力で楽しんでたからそんな気持ちになったんだろうな。あの笑顔を見て、自分も笑顔になれた。笑いのチカラってすごいよな~!! 私もカンボジアの子供達のようにいろんな人を笑顔に出来るようになりたいな。



WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL TREE IS PLANTED

植林・間伐プロジェクト

活動概況

今世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心一つにして力を合わせる時だと思えます。当プロジェクトは「緑」と「希望」いっぱい地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も越えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2011年は、東日本大震災を受け、震災後に計画していた海外・国内の植林間伐ツアーは自粛しましたが、そんな中でも一元募金・一元ヒーローは多くの方の応援により、継続して集める事が出来ました。また2月には和歌山植林ツアーを、夏には中国内モンゴル駐在員の植林活動支援を行いました。



足跡

- 2005年4月 第1回中国内モンゴル植林ツアー
2009年まで毎年4月に開催、2010年は4月と9月に開催し、2011年までにツアーを計7回開催しました。
- 2008年11月 植林事務局をWONDERFUL 植林 FESTIVALと命名し新たに事務局を設置 同時に一元募金プロジェクト開始 2011年までに一元ヒーロー837名となりました。
- 2009年6月 第1回ブラジル植林ツアー開催
- 2009年8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催
2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
- 2010年3月 国内植林ツアー開催
2010年3月と2011年2月に和歌山植林ツアー、2010年10月に1000人の熊本植林を開催しました。
- 2010年4月 国内間伐ツアー開催
2010年4月から8月までに静岡、熊本、奈良にて合計5回の間伐ツアーを開催しました。
- 2010年4月 中国内モンゴルに植林駐在員誕生
2010年は4月から10月、2011年は8月から10月まで、中国内モンゴルで植林や水やりなどをしました。

■ 植林プロジェクト概要

どうしたら当たり前前に雨が降る地球を未来の子供達に残せるのだろうか? その答えの一つが植林でした。木を植えると雲が出来て雨が降ります。そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」と名付けて、新たに事務局を設置し「一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。2011年は、一円募金活動の他、中国内モンゴルの駐在員の支援、和歌山での植林ツアーを行いました。

一円募金～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える!」という「一円玉=緑」の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになる! という想いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び、一円マン、一円レディ、一円レンジャー、一円ステーションの4つのヒーローを募集しました。

【2011年の実績 登録人数:19人(チーム) 募金額:1,288,105円】

【2011年までの累計 登録人数:837人(チーム) 募金額:9,190,787円】



■ 中国内モンゴル植林

2011年は、2005年から毎年行っていた中国内モンゴル植林ツアーは中止となりましたが、2011年の8月から10月の3ヶ月間、植林駐在員が中国内モンゴルに滞在して128本の植林を行い、植林後も水やりなど苗木の管理を行いました。植林駐在員の活動応援企画では全国各地の90名の方が支援して下さり、資金面で駐在員の活動を支援して頂きました。ワンフェスは、今後も中国内モンゴル植林を継続的に展開し、砂漠を森へと変えていくプロジェクトを展開していきます。



■ 和歌山植林

2011年2月に第2回和歌山植林ツアーを行いました。今回は、地元が主催している「第5回紀州熊楠の森大植樹祭」に参加して、地元の方々と合わせて総勢800人で7,080本の植林を行いました。また、命をテーマにした講演・ワークショップを行い、日の出前からみんなで森の中に入って一斉に鳴き出す鳥の声を聞きました。命はやわやわ、人間は素晴らしい、自然は素晴らしい命は素晴らしいと、多に感じる事が出来るツアーになりました。



■ 間伐プロジェクト

今、日本の森はほったらかしにされ、元気がなくなってしまっている事、それが原因で大雨の時に災害が起きている事、そして森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法としてNPO法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。2011年は、東日本大震災を受けて間伐プロジェクトは活動を休止しましたが、2012年のプロジェクト再開に向けて準備を行っています。

活動概況

2011年3月11日、日本はかつてない大地震を体験しました。多くの人の命が犠牲になり、地震や津波、そして原発事故により避難や疎開を余儀なくされた方も数多くいます。MAKE THE HEAVENは、自分たちに何が出来るだろうと考えながらすぐに動き出す事を選択しました。3月16日に東日本大震災復興支援プロジェクト「め組JAPAN」を結成し、宮城県石巻市と福島県で復興支援に力を注いでいます。そして、東日本大震災を受けてこれからのMAKE THE HEAVENの在り方について話し合った結果、これからは被災地の方々が一時的にでも被災地を離れて心と身体を元気に出来る場所、安心安全な野菜を大規模に作れる農地が必要だと判断し、5年間本部として拠点を置かせて頂いた香川県の小豆島を離れ、広大な土地がある北海道へ移る事を決断しました。2011年5月には北海道の千歳市に農場を借り、7月には本部事務所を洞爺湖に移しました。農業は「今日はいい天気だFARM」と名付けて、たくさんの方々と一緒に自然農で野菜や幻の黒大豆「黒千石」を育て収穫しました。夏休みには、トークやライブを楽しみながら洞爺の食と大自然を堪能する2泊3日の「洞爺湖ピクニックツアー」と、福島県を中心に東北の親子185名を約1ヶ月間洞爺湖に招待して心と身体をリフレッシュしてもらった「洞爺バケーション」を行いました。これからも、この北海道の大自然の中で自然農やツアー・イベントを開催して、自然の恩恵を受けながら世界中に笑顔を増やす活動を続けていきます。この洞爺湖一帯では、農作物は何でも作れるから特産品がないと言われていますが、MAKE THE HEAVENは、この洞爺湖の特産品は「愛」だよと、世界中に大きな声で伝えていきたいと思っています。震災により、沢山の悲しみや苦しみが生まれました。しかし、この震災をきっかけに学びや気づき、出逢いが数多く生まれた事も事実です。2012年は更に笑顔が増えるように沢山の愛を届けていきたいと思っています。



足跡

- 2011年5月 北海道千歳市協和にて自然農開始
自給用の野菜や、幻の黒大豆「黒千石」の種まきや宿泊施設の補修改装を行いました。
- 2011年7月 北海道虻田郡洞爺湖町に本部事務所移転 洞爺湖ピクニックツアー開催
- 2011年6月 自給用の野菜を順次収穫
- 2011年8月 洞爺バケーション開催
- 2011年11月 黒千石収穫
- 2011年12月 黒千石販売開始

北海道プロジェクト 北海道本部・農業プロジェクト・疎開プロジェクト 2011年事業報告

■北海道農業プロジェクト「今日はいいい天気だ FARM」

今日はいいい天気だFARMは、東日本大震災を受けて、被災地の方々の受け入れと、安心安全な野菜を作る農業を行うために耕せにっぽんと地域の方々の協力の下、北海道千歳市協和にて5月からスタートしました。ボランティアの方や福島から避難された方と共に総勢100名以上で農作業を行い、周りの農家さんからは「絶対無理」と言われた粘土質の畑で肥料も農薬も使わない自然農に挑戦しました。5月には幻の黒大豆「黒千石」1町(東京ドーム約一つ分)韃靼そば3反自給用野菜2反の種まきをスタートし、種まき・除草作業・収穫作業・選別作業のすべてをボランティアさんと共に、手作業にこだわって行いました。そして、夏場の収穫時期には、トマト・ピーマン・ズッキーニ・ナスなどを収穫して自給する事が出来ました。天候不順で、韃靼そばは、うまく乾燥が出来ずに失敗しましたが、黒千石は見事に実り、11月に1,800kgの収穫を上げる事が出来て、完全無肥料無農薬で作った黒大豆「伝説の伝説の黒千石」を12月から販売開始しました。

また、みんなが生活する宿舎を自分たちの手で補修し、乳酸菌を取り入れた免疫力を高める食事を通して健康な身体づくりをしました。北海道の大自然の中、土と共にみんなで力を合わせて楽しみながら生活する事で、みんなが一つの家族のようになりました。太陽と共に目を覚まし、天気と共に仕事をし、仲間と共に自分達で作った野菜が並ぶ食卓を囲んで「頂きます」をする。種を蒔き、芽吹きを待ち、太陽に感謝して収穫を心から喜ぶ。自然の恵みのありがたさを、参加者さんと地域のあたたかい農家さんと共有し幸せを感じる1年になりました。



伝説の伝説の黒千石

黒千石は、北海道原種の黒豆で「幻の黒大豆」と呼ばれています。豆類の中でも栽培期間が長く手間が掛かる為、1970年以降の大規模な機械農業の発展と共に栽培者が途絶え、一時は絶滅品種とも言われました。他の黒大豆と比べてポリフェノールの値が高く、ガンやウイルスへの免疫力を高める作用を持っています。調理の手間はあまりかからず、浸水時間も2時間と短く、お米と一緒に入れて炊くと鮮やかなピンク色のご飯が炊きあがります。他にもスイーツやお茶など、たくさんの用途で活躍してくれます。



■北海道疎開プロジェクト「洞爺バケーション」

2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故で、多量の放射能が福島県を中心に降り注ぎました。6月3日郡山市の幼稚園と小学校でガイガーカウンターを使って放射線量を調べた結果、極めて高い異常な数値が出ました。また、公園で遊ぶ子供たちの姿が見られなくなり、外出時にはマスクをし、夏の猛暑の中でも長袖を着ているという光景を目にしました。このまま放射線量の高い地域に住み続けると、流産が増えたり、障害を持った子どもが生まれたり、成長障害が起きたり、白血病や癌になる人が増えたりとも言われています。特に放射能の影響を受けるのは胎児、赤ちゃん、子供達です。福島県では、その頃すでに体調不良を訴える子供達が増え、お母さんたちの不安もただただ募るばかりでした。そんな中、他団体が行っている、チェルノブイリの子供たちを毎年約2ヶ月ホームステイで受け入れるというプロジェクトで、来日当初はご飯も食べられないくらい元気がなかった子供達が、帰国する頃には日本の子供達と一緒に元気に走り回りご飯もモリモリ食べるようになったという話を知りました。そこで福島県を中心に、被災地で暮らす子供達に北海道の大自然の中で大いに遊んでもらいたい、そんな子供達の姿を見ることでお父さんお母さんたちにも安心して生活してもらいたいという想いで、家族で安心したひと時を過ごして元気になるための疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を企画しました。



洞爺バケーションの実施内容

今回の洞爺バケーションは、2011年7月25日～2011年8月23日の約1ヶ月間で前半(7月25日～8月9日)と後半(8月9日～8月23日)及び全日程の3コースに分けて、北海道虻田郡洞爺湖町にて実施しました。全国及び海外の皆様からの多額のお金や物資等のご支援を始め、北海道や洞爺湖町等の官公庁、そして地元住民の皆様にご協力頂いた結果、総勢185名の親子を招待することができました。期間中もボランティアの方々に支えて頂き、無料のヘアカットやマッサージ、イベント、交流会、バーベキュー、ウォータースポーツ、サッカー観戦等々、充実した内容で日程を進めることができました。大自然の中で生き生きと遊ぶ子供たちの笑顔はまるで天使のようで、スタッフやボランティア受け入れ先の人々の心も癒してくれました。それまで大きな不安の中で過ごしてきたお父さんお母さん方は、私たちの比にならないほど癒されたと思います。帰省の日には涙を流す子どもが多く、終了後にはたくさんの感謝の声やお手紙を頂き、洞爺バケーションでの生活を楽しいんでもらえたことを実感しました。また、洞爺バケーションでは、北海道という素晴らしい環境に触れてもらうことで、移住という選択をし易くしてもらうことも目的の一つでした。そして、洞爺バケーションを機に2011年の12月までに4組の家族が洞爺湖町に移住された他、他県にも何組かの家族が移住されたという報告を頂いています。今後も、ご支援を頂きながらとなりますが、東北の子供達・ご家族に元気と笑顔を届けるために、疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を続けていきたいと思っております。

北海道プロジェクト

北海道プロジェクト 2011年事業報告
洞爺バケーション参加者さんの声

お母さん 1

毎朝カーテンを開けると神秘的な洞爺湖町が見守ってくれていて、それだけで笑顔になりました。子供もお友達やお兄ちゃんたちとたくさん遊んでもらえてすごく楽しそうでした。地元では周りとの温度差に孤独感を感じていましたが、こちらで出会えたママたちと知り合えたことでまた頑張れそうです。ありがとうございました。

お母さん 2

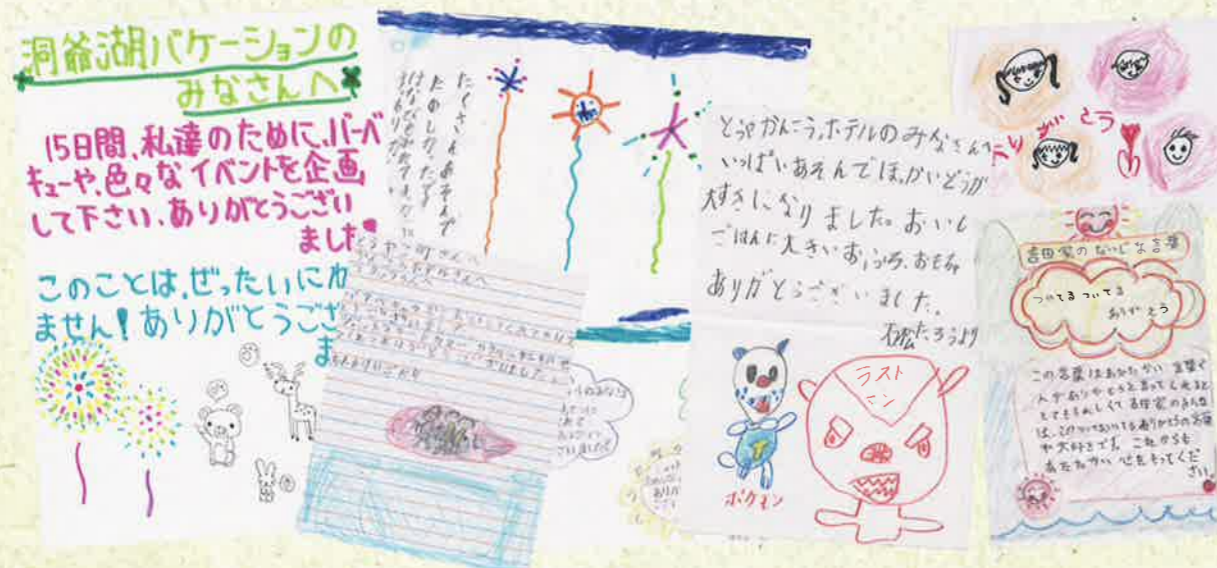
最高でした！人も空気も自然もみんな優しく気持ちいいと思いました。子供も笑顔が増えました。日焼けしていっぱい外で遊んでのびのびしてました。よく歩くようになり体力がついたと思います。これからも福島に住まなければ…とネガティブな気持ちでいましたが、今は、未来は自分が創るんだと明るい気持ちもてるようになり、ワクワクしています。もっと自分のことが好きになれそうです。この世は愛に溢れていますね。

お母さん 3

景色はきれいだし、人も良い方ばかりで夢のような一ヶ月でした。福島では引きこもりの生活だったのでとても良い経験になりました。参加前は不安ばかりでしたが、慣れてきた頃には帰りたくなってました。たくさん日の光を浴びることで身体がすっきり元気になったと思います。本当にありがたい企画に参加させていただき、動いていただき、本当にありがとうございました。たくさんのお会いに感謝します。

お母さん 4

とても素敵なおとこでした。子供も日に日に明るくなり驚きました。しかし、私の顔が一番変わったかも知れません。子供に「あ、お母さん笑ってる！！」と言われ気がつきました。とてもステキな一ヶ月間をありがとうございました。



げんきのたね夢

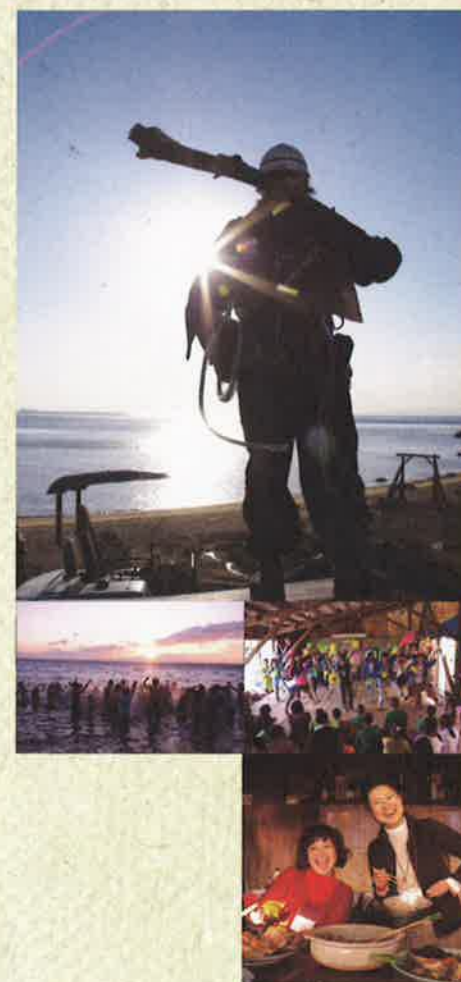
げんきのたねまきプロジェクト
2011年事業報告

活動概況

げんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢」は、東日本大震災を機に、2011年5月末を持って6年間の活動を終了させて頂きました。げんきのたね夢は、無農薬・無化学肥料の自然農、薪割り・五右衛門風呂・かまどでの炊き等昔ながらの生活、塩づくりやモノづくり、イベント、ワークショップ等、人と自然と触れ合いながら様々な体験をしてもらう場を提供してきました。普段は当たり前だと思っている出来事にみんなで感謝しながら共同生活をする事で、来てくれた人に元気になるきっかけや、はじめの一步を踏み出すきっかけ、農や食の大切さに触れるきっかけを創ってきました。また、震災直後には、被災地のご家族の受け入れを行い、一時避難所としても活動しました。しかし、東日本大震災を受けて農業の大切さを改めて実感し、今よりもっと大きな土地で大規模農業を行うために北海道に移転する事になりました。これまで本当にたくさんの方々から支援を頂き、6年間の活動を通して延べ1万人以上の人に足を運んで頂きました。今後は、北海道の大地でさらに笑い楽しみながら、笑顔を増やすために動いて行きたいと思っております。本当に多くのご支援ありがとうございました。

足跡

- 2006年1月 小豆島げんきのたねまきプロジェクト開始
- 2006年春 有機農法で田植え、自然農業開始
2010年まで、毎年有機農法でのお米づくり自然農法での野菜づくりをしました。
- 2006年夏 廃材で造ったステージ「SORA」が完成。
カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR でカンボジアの子供達を招待しました。
- 2006年 参加者数：約1,400名
- 2007年春 廃材でつくったお風呂完成
- 2007年 参加者数：約1,000名
- 2008年春 釜戸完成
- 2008年8月 夏のメインイベント「旬夏集島」開催
2010年までに2回開催しました。
- 2008年11月 ビザ窯完成
- 2008年12月 大忘新年会開催
2010年までに計3回開催しました。
- 2008年 参加者数：約3,600名
- 2009年 参加者数：約2,900名
- 2010年10月 塩小屋アートプロジェクト開催
- 2010年 参加者数：約1,500名
- 2011年3月 東日本大震災の一時避難者の受け入れをしました。
- 2011年 5月31日をもって、6年間の活動を終了しました。
2011年までに、延べ1万人以上の方が参加してくれました。



学っち

小豆島は僕の人生を変えてくれた場所です。2008年に仕事を辞めてげんきのたね夢楽にやって来て、小豆島での生活が始まりました。僕にも色々な事情があったけど、やってくる参加者さんたちも大なり小なり色々な悩みを抱えていました。一緒に田んぼや畑で作業をしたり、ものづくりをしたり、海で泳いだり、かまどでご飯を炊いたり、五右衛門風呂を沸かしたり、料理をしたり。そして一つのテーブルを囲んでみんなでご飯を食べる。そんな日常の中で、それぞれの悩みや想いを自然に話せたり、心を開いていくことでたくさんの笑顔が生まれました。昔のような暮らしがそこにはあって、不便なところがたくさんあった。だからこそ、助け合ななきゃいけないし、支え合ってみなで作りあげていくことで、笑顔もたくさん増え、たくさんの家族が全国に増えました！一つ一つの出会いが何よりの宝物になっています。

もも

私は、エンジェル班として苦手だった料理に挑戦し、沢山の方の料理に対する愛情を教えて頂き、作ることの大切さや楽しさを知って、いつしか自分の作ったご飯を『美味しいよ』と言われてもらえるようになった時は本当に嬉しくて少しづつ自信を持ってキッチンに立つことができるようになりました。他にも、自分たちで育てた野菜やお米で作るご飯の美味しさに感動し、作ってくれた人と食材への感謝、そしてげんきたねファミリー皆で一緒にご飯を食べる喜びを日々感じていました。げんきたねで生活する中で、自然とおもてなしの心が身につく、食に対する意識が変わり、以前よりも人との出会いや、共に集い支え合っていくことが楽しく感じられるようになりました。いってらっしゃい、ただいまの声が響くげんきたねが大好きです。

ころー

小豆島、げんきのたね夢楽での活動は、僕にとってかけがえのない素晴らしいものでした。当初、とても住めるような状態にない宿舎を皆で修理し、水道がないので山から水を引き、風呂やかまどを作り、薪のある昔ながらの生活を体験できる空間を少しずつ作っていきました。お米や野菜も自分たちで作る挑戦をし、自然や作り手、食物への感謝の想いを培うことができました。不便さの中で人と自然、人と人はどのように向き合い、共存していけばいいのか実体験で学び、泣き笑いしながら成長させて頂くことができました。血縁を越えた仲間や家族ができたことはとっても大切な宝物です。ここでの経験がなければ、今の自分の存在はなかったと心から感謝しています。

こういちマンモス

げんきのたね夢楽の活動当初から関わらせて頂き、来てくれた人みんなが、帰る時には「元気になっちゃったー」って言ってもらえる場所を作りたい。そんな想いを込めて活動させてもらいました。無農薬で農業に挑戦したり、薪割りをして、かまどでご飯を炊いたり、五右衛門風呂を沸かしたり、不便さを楽しみながら、当たり前の生活がどれだけ幸せなのか感じれる場所でした。それ以上に、人の暖かさを感じられて心が暖かくなり、笑顔がどんどん増えて夢を形にしていくためにみんなで考え、不器用ながら楽しく動いて想いを形にしていける場所でした。げんきのたね夢楽はみんなの心に思い出として残って頂けたら幸せです。これからもいっぱいげんきのたねを蒔いて行ける様、笑い楽しみながら動いて行きたいと思います。

啓発事業

ロックバンドおかん・映像部
送電線国有化を願う署名プロジェクト・ツアー&イベント

活動概況

MAKE THE HEAVENは、他にも様々な活動を笑い楽しみながら行っています。ジャンルにとらわれる事なく、世の中の素晴らしい人や活動を広めていくサポートをする事で、笑顔や元気や希望を増やしています。2011年はロックバンドおかんによる全国でのライブ活動、様々な映像制作、送電線国有化を目指す署名活動を行った他日本や海外でツアー、イベントを実施しました。



ロックバンドおかん ライブ写真



107+1 天国はつくるもの~ Part2



第2回和歌山植林ツアー 集合写真



洞爺湖ピクニックツアー 写真



げんきのたねまきツアー ダンス写真

啓発事業

ロックバンドおかん 2011年事業報告

活動概況

今日本中では、心の病を抱えて自ら生きる事を諦めてしまう人や、明日への希望を見出せない人が増えています。おかんは「命ある事の素晴らしさ」や「生きている事の幸せ」を感じてほしいという思いを歌にして届けていく事で、日本中に元気や笑顔を増やす活動を行っています。2011年は、東日本大震災を受けての被災地での復興支援活動、大阪城ホール単独公演への布石となる東京と大阪での500人規模のワンマンライブの実地、ニューシングル「Independent」のリリースそして全国各地での述べ100回を超えるライブ活動を行ってきました。

足跡

- 1996年 ボーカルDAI、ギターYOU、ベース本東地の3人で結成
- 2000年 当時、バンドの一番のファンだった友人の突然の死をきっかけにオリジナル楽曲を制作し、ライブ活動を開始
- 2004年 メンバーチェンジの末、ドラム成を迎えて現在のメンバーに
- 2010年5月 MAKE THE HEAVENと専属事務所契約
神戸最大の無料フェスCOMING KOBEに6年連続で参加
- 2010年7月 TSUTAYA コーズブランド
DVDテーマソングに楽曲「Independent」採用
- 2011年3、7、12月 東日本大震災の被災地で復興支援活動
とミニライブを開催
- 2011年7月 「Road to 大阪城ホール第一章東京公演」
を代官山UNITにて開催し、約400人を動員
- 2011年8月 「Road to 大阪城ホール第一章大阪公演」
を梅田AKASOにて開催し、約750人を動員
- 2011年9月 DVD付のニューシングル「Independent」をリリースし
Amazonの音楽総合ランキングで12位、J-POPロック
部門で2位を獲得
- 2011年12月「心合わせツアー」を全国14会場で開催
- 2013年 大阪城ホールでの1万人を動員する単独ライブが決定！



活動報告

2011年は、9月21日に待望のニューシングル「Independent」をリリースし、Amazonの音楽総合ランキングで12位、J-POPロック部門で2位を獲得しました。また、東日本大震災を受け、3月、7月、12月と三度に渡り被災地を訪れ、復興支援活動そしてミニライブを行った他、夏には2013年の大阪城ホール単独公演に向けて「ROAD TO 大阪城ホール第一章〜ありがとら〜」と銘打ち、7月東京、8月大阪のダブルワンマンライブを開催し、多くの方々に協力頂いて見事大成功を収めました。そして、12月には「おかんメンバーと応援して下さる全国の皆さんとで心と心を合わせて想い一つにして2012年を迎えよう」という趣旨の下、「心合わせツアー」と題して、北は北海道、南は九州まで全国14会場でライブを行い2011年を締めくくりました。2012年はロックバンドおかんにとって、2013年大阪城単独公演を成功させるための重要な1年になります。歌を通してたくさんの人に希望を届けるために、おかんを応援して下さっているすべての方々への感謝の心を持って、一日一日を大切に活動していきます。

ロックバンドおかん メンバーからのメッセージ

■ ボーカル&三線 DAI

僕達「おかん」にとっての2011年は、これまでの15年間の活動の中でも、この先忘れる事の出来ない1年となりました。バンド結成時からずっと夢として追いかけて来た「大阪城ホール単独公演」を実際に2013年に実現する事を決意し、全国のライブ会場のステージでその夢を語りながら、共に夢を応援して下さいる人達を募り続けました。目標集客人数を達成出来なかったら夢は先延ばしという「東京大阪ダブルワンマンライブ」を乗り越え、夢を大きく前進させる事が出来て、応援して下さいる全国の皆さんに今までにないほどの愛を頂いた年でもありました。そんな中で、東日本大震災があり被災地へも度々行き支援物資と共に演奏を届けさせて頂いたり、被災地へ行けない全国の皆さんとチャリティーイベントを何度も行い、支援金を集める活動もさせて頂きました。その他にも、今までは少なかった中学高校でも何度も演奏させて頂くなど、今本当に届けたい人達へ演奏を沢山届けさせて頂けた、充実した1年だったと想います。感謝の想いと共にこれまでの成長を爆発させて、ついに実現しようとしている「大阪城ホール」2013年春に向けてこれからもおもいきり突き進んでいきたいと想います。自分達の夢を通して世界中の沢山の人の幸せのきっかけになっていきたいです。



■ ギター YOU

2011年を振り返って思う事といえばやはり大阪城ホールの夢が大きく動き出した事でしょうか。夏のワンマンライブももちろんそうなのですが、まずは自分達が未だ誰も立った事のない道のスタートラインに立てた事が何より大きかったです。とは言えまだまだスタートラインに立っただけなので、後は中身を伴わせ充実させて行く事がこれから成し遂げる事だと思います。あとは、震災が起き、現地に足を運び、感じた経験が大きかったです。メンバーそれぞれの人生においても大切な経験をさせて頂いた1年でした。

■ ベース 本東地

2011年は僕にとって再確認の年でした。中学生から夢見続けてきた大阪城ホール。そのステージが実現に近づいた事で、改めて自分が音楽を続けてきた意味や重さを知ることが出来ました。全国で僕たちを応援して下さいる方々や仲間たち、家族、みんないるから僕がこうして音楽を続けてこれた事。自分がおかんという道を歩き続けてきた事も、恵まれた環境を与え続けて頂いた事も、全て当たり前じゃない。そして最愛の人を亡くす悲しみや絶望感、また人が人を想う事の強さやありがたみ。それら全てを改めて感じさせてもらった1年でした。頂いた愛情や勇気を全て大阪城ホールに向けての力に変えて、仲間と力を合わせて突っ走って行きたいと思います。

■ ドラム 成

2011年は、沢山の皆さんに支えられて、今の自分達の活動があるんだということ、そして、共に歩んでくれている仲間の大切さを、活動のなかで、魂の髄まで深く教わったそんな1年でした。2012年はそんな気持ちと学びを活かして、自分自身の成長、そしてバンドの成長にしっかりと繋げていきたいと思っています。【名実共に、大阪城ホールに相応しいバンド、おかん】これを形にする事が、今年の自分の目標です。たくさんの方々の夢生きる力に繋がるよう、一日一日を大切に、ひとつひとつの出逢いを大事にして、精一杯頑張っていきます！

啓発事業

映像部・日本人の夢、送電線国有化を願う1000万人署名プロジェクト
ツアー&イベント 2011年事業報告

■映像部活動報告

映像部では、映画は世の中にある希望をたくさんの人に伝える最高のツールという想いから、伝えたい事をただ真面目に伝えるのではなく、一人でも多くの人を受け取りやすいようにエンターテインメントとして伝えて行く事で、世の中に希望や元気や笑顔を増やす活動を行っています。2009年に完成した映画「107+1～天国はつくるもの～Part2」は、これまでに5万人以上を動員、世の中に希望や元気や勇気を増やしました。しかし、日本中で病気が増え続けていて、国家予算38兆円に対して医療費が34兆円かかっているという事実を知り、病気で苦しむ人を少しでも減らす事が出来たらと2010年7月、映画「107+1～天国はつくるもの～Part2.5」を製作するために映像部を再発足し、2011年も引き続き医療関係者の方々の取材を行いました。東日本大震災により取材などは一時中断していましたが、2012年から再び動き出していきます。

■映像部のこれまでの作品

映画「107+1～天国はつくるもの～Part1」(2003年製作/2011年までの動員数:約13万人)

映画「107+1～天国はつくるもの～Part2」(2009年製作/2011年までの動員数:約5万人)

■日本人の夢、送電線国有化を願う1000万人署名プロジェクト活動報告

日本の自然エネルギー技術は世界でもトップクラスであるにも関わらず、自然エネルギーの自給率が上がらずに原子力や火力発電への依存が続いています。その原因の一つに、送電線を大手の電力会社が独占している事が上げられ、企業や都道府県市区町村などが独自に発電設備を用意しても、公正な価格で販売出来ない状態になっています。送電線が国有化され、大手電力会社以外も自由に電気を作って供給出来るようになると、地域性や企業技術を活かした自然エネルギーの発電が各地で生まれ、送電ロスの問題が解消されて電気代が安くなる可能性があります。そこで、送電線国有化を願う市民の声を国会に届けるため、1000万人を目指して6月6日から署名を集めはじめた結果、1000万人には届きませんでした。1ヶ月で163,254名の署名が集まり、集まった署名を7月7日に経済産業大臣政務官中山義活氏にMAKE THE HEAVEN理事長 軌保博光(てんつくマン)から手渡しさせて頂きました。今後もNOではなく、YESという提案をさせて頂く予定です。署名をして下さった皆様、ありがとうございました。

【2011年12月21日時点の署名数:178,733人】



■ツアー・イベント活動概況

たくさんの人と人とが繋がり、同じ志を持つ仲間が出来る事で、その後の人生が大きく変わります。MAKE THE HEAVENでは「1人の100歩よりも100人の1歩」で世界を変えていくために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を提供しています。2011年も、参加した人がただ感動するだけではなく、新たな一歩を踏み出せるツアーやイベントを開催し、多くの出逢いやきっかけを提供する事が出来ました。

げんきのたねまきツアー

2011年の1～3月に、大切な人にダンスと言葉で想いを伝えるサプライズツアー企画「げんきのたねまきツアー」を行いました。全国からサプライズの依頼を募集して、依頼者さんとツアーメンバー、集まった仲間たちで、依頼者さんが感謝を伝えたい方に「まいどハッピー」というダンスを踊り、その後、日頃伝えられなかった想い「ありがとう」や「大好き」を伝えて頂きました。計31会場にてサプライズを執行し、各会場に笑顔と感動の涙が溢れ、絆を深めてもらう事が出来ました。ゴール目の3月11日に東日本大震災が起きたためツアーは中断していましたが2012年には東日本サプライズツアーを開催する予定です。

カンボジアスタディツアー

「まずは行ってみよう。」「まずはやってみよう。」「きっとその先に何かがあるはず。」を合言葉に、カンボジアのキラキラな子供達の笑顔に出逢ってほしいという想いから人生を変えちゃうツアーを、夏と冬の2回行いました。ツアーでは、孤児院やスラムの子供達に会いに行ったり、井戸掘り体験や村でのホームステイをしたり、カンボジアの歴史を学んだりしています。日本では忘れてしまっていた大切な何かを思い出す、笑顔溢れるツアーになっています。

植林ツアー

2011年は2月に和歌山で植林ツアーを開催し、全国から82名の方が参加しました。地元の方々と総勢800名で植林を行った他、命と自然の素晴らしさをテーマにした講演やワークショップを行い、参加者とスタッフみんなが一つになって大感動するツアーとなりました。

洞爺湖ピクニックツアー

北海道に本部事務所を移転しての初めてのイベントで、7月に洞爺湖で開催し、全国から48人の方が参加しました。ツアー中は、トークライブや音楽ライブで心を通わせた他、洞爺湖の最大の魅力である食と自然を堪能してもらうために、スープカレーや地元の野菜を使った料理を楽しんだり、洞爺湖の真ん中にある中島に遊覧船で行って、みんなで森の中で遊んで癒されたりしました。

洞爺バケーション

東日本大震災以降、被災地で体調を崩したり、放射能の影響で外で遊べなくなっている子供達を、安全な地域に一時避難させたいという保護者の声を受け取り、疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催しました。放射能濃度の低い地域で生活して免疫力を上げて元気になってもらいたい、子供達に外で思いっきり遊んでもらいたいという思いに多くの方から賛同・協力を頂き、7月25日～8月23日の約1ヶ月間、福島県を中心に東北の親子185名を洞爺湖に招待する事が出来ました。日頃外で遊ぶ事や雨に濡れる事など様々な制限を受け夏でも長袖の服を着ていて真っ白だった子供達が洞爺バケーションが終わる頃には真っ黒に日焼けをして心も身体も元気になりました。また、今までは一人で悩み苦しんでいた親同士の繋がりも生まれ、帰ってからも情報交換をしたり、中には放射能濃度の低い地域に引越しを決意する家族も生まれました。

MAKE THE HEAVEN GOODS

MAKE THE HEAVENでは、世界中に笑顔が増える様々なグッズを販売しています。商品の売上がプロジェクトの支援に繋がっています。ここでは一部の商品をご紹介します。その他の商品は「web shop 楽喜天」にて販売しています。http://maketheheaven.shop-pro.jp/

め組JAPAN

■め組JAPANポストカード 定価500円(内税)

東日本大震災復興支援チャリティグッズとして販売しています。4種類のポストカードが入っています。この売上は、石巻を拠点として活動している「め組JAPAN」の活動費に使われます。

■こまっちゃぐれタオル 定価1,000円(内税)

「め組JAPAN」の寄り添い活動のひとつ「手芸教室」に集うおかあちゃんの手から誕生しました。石巻のおかあちゃんがこのタオルを一つ一つ手で縫っています。ここへ集う事が生きがいだったり、みんなとただお喋りしながらチクチクする事に幸せを感じながら、このタオルは作られています。そして、このタオルの売上は直接、おかあちゃんたちに渡されています。

石巻のおかあちゃんの手仕事”おだってばりい”で”ブログ” http://d.hatena.ne.jp/odatte/

MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

■マイ箸&伸びるフォークセット 定価1,575円(内税)

このセットに使われている箸袋は、カンボジアのプレイラン村や孤児院のおばちゃんたちが、心を込めて作っているフェアトレード商品です。この箸袋の売上が村の人たちの生活を助け、孤児院では運営資金となっています。その箸袋とマイ箸、伸びるフォークがセットになっています。伸びるフォークが出来たきっかけは、楽しくマイ箸を広めたいというてんつくマンのひらめきからでした。MAKETHE HEAVENのおすすめグッズです。

WONDERFUL WORLD 植林FESTIVAL

■ワンフェスタオル 定価1,500円(内税)

「人と森をつなぐレインボータオル」と名付けられました。このタオルには「虹を架け、森を増やそう!」というメッセージが込められています。このタオルの売上は、苗木の一部になります。このタオルが売れる事で、木が植えられ地球に緑が増えるため、自分で木を植える事が出来なくても、緑が増えるお手伝いが出来ます。

今日はいい天気だFARM

■伝説の伝説の黒千石 定価1,500円(内税)

この黒大豆は、北海道千歳にある「今日はいい天気だFARM」にて、「おたま」と「あっちゃん」そして全国から集まってくれた素晴らしい仲間たちの手で、完全無肥料無農薬で栽培されました。収穫されるまでにいろいろな「壁」を乗り越えて、この希少価値の高いお豆が出来ました。お試し用の200gでも販売しています。黒千石の伝説ストーリー: http://maketheheaven.com/kyowa-farm/?page_id=290#

ロックバンドおかん

■DVD付きシングル Independent 定価2,000円(内税)

世代を越えて今を生きる同志達へ贈る、力強くも暖かなバンドサウンドにのせられた「おかん」からのメッセージ。全国のファンの皆さんから待ち続けられた待望の1枚がついに販売開始です。「命を燃やせ、今を生きる」先の見えない時代の中、ただひたすらに自分の心の声を信じ今を一生懸命に生きる。そんな想いを奮い立たせてくれる1枚です。



スタッフからのおすすめ

■逆転本 定価300円(内税)

人生を笑劇的に素敵にする「逆転本」。あなたの幸せをただただ願う「伊達直人」と名乗る男?があなたに届けにきました。素敵な言葉たちが笑いと共にあなたの人生を変えます。つついってしまおうネガティブな言葉を面白く言い換えた言葉や、ネガティブな言葉を言った後に付け加えると脳がポジティブになる最高の言葉の数々をお届けします。

■ちびさん本 定価1,000円(内税)

この本は世の中の孤独感を一つでもなくしたいという思いから生まれました。誰かに愛されてる、守られてる事が分かったら、人は元気になります。孤独感を減らして、元氣と感動を増やす本、それが、ちびさん本「おきもちとどきました」です。そして、この本を販売する事がきっかけで人と人のつながりが生まれたらいいなと思い、全国に販売店さんがいます。

全国の販売店一覧 http://minnagasanta.com/shop/index2.html

■九州へそ大学DVD2枚組 定価3,800円(内税)

生き方の見本市「九州へそ大学」、伝説の講演会がついにDVD化!日本に風穴をあける6人の志士、中村文昭&師匠の田端俊久、大嶋啓介、てんつくマン、平本あきお、ちゃんへん、が出演。パフォーマンスやトークライブ、そして、平本あきおが中村文昭、大嶋啓介、てんつくマンを生コーチングします。泣き笑い感動し学べる、見所満載の映像になっています。

■日めくりカレンダー 定価1,575円(内税)

見ているだけで幸せを運んでくれる大人気のカレンダーです。環境の事を考え、古紙100%、大豆油インク使用と素材にもこだわりました。1ヶ月31日間、毎日変わるてんつくマンの筆文字と、ももこちゃんのかわいいイラストが笑顔と元氣を与えてくれます。あなたの生まれた日にはどんな言葉が書いているのかな?

著者てんつくマンの書籍。

■答(サンクチュアリ出版) 定価1,575円(内税)

1998年11月から路上に座って筆文字パフォーマンスを続けてきたてんつくマンが、延べ12,000人を前に書いたメッセージの中から、現代に生きる人々が抱える悩みに対して「答」えている48の言葉を選び、その筆文字メッセージと解説的エッセイをつけた1冊です。

■やさしすぎる君へ(サンクチュアリ出版) 定価1,155円(内税)

路上詩人てんつくマンが10万人に贈り届けた、愛と勇気のメッセージ集です。この本を読んだら自分の事がもっと好きになる、心がすっと軽くなる自分らしくいられる事が幸せなんだって思える1冊です。

■あなたの神様(サンマーク出版) 定価1,470円(内税)

映画づくり、海外支援、環境活動などなど…本気で動いた時には、最強のサポーター、ふだんはただのおっさん(女好き)、そんなへんな神さま「安永さん」と語った、てんつくマン流人生の歩き方が掲載された1冊です。

■感動無き続く人生に興味なし(サンクチュアリ出版) 定価1,260円(内税)

原宿の路上から始まり全国の路上に座り、15万人以上の人にインスピレーションでメッセージを書き綴った、勇気を刺激するてんつくマンの自叙伝。この本は、あなたを魂レベルで刺激する本です。

■あきらめない生き方(サンクチュアリ出版) 定価1,470円(内税)

ほんの少しでもいい。動けば、きっと何かが変わる。夢に向かって動き出したいあなたに。自分に自信を持ちたいあなたに。やりたいことをさがしているあなたに。数々の壁を乗り越えてきた男、軌保博光だからこそ伝えられる55のメッセージをお届けします。



会員・募金・スポンサー

MAKE THE HEAVENでは、支援の内容に応じていろいろなサポート方法がありますので、ご紹介します。



MAKE THE HEAVEN
全体のサポート

MAKE THE HEAVEN 会員

MAKE THE HEAVENの会員になる事が出来るスポンサー制度です。頂いたお金は MAKE THE HEAVEN の各プロジェクトの活動費に使わせて頂きます。会員になって頂く事で、総会への出席権や会員専用の情報発信などをさせていただきます。

詳細：http://maketheheaven.com/egao/?page_id=1133

エレファントスポンサー

MAKE THE HEAVENが出版している、ちびさん本の販売店になる事が出来るスポンサー制度です。頂いたお金は MAKE THE HEAVENの各プロジェクトの活動費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ちびさん本のプレゼントや、卸値の割引があります。

詳細：<http://www.maketheheaven.com/erefant/>

め組 JAPAN
へのサポート

天国はつくるもの基金

MAKE THE HEAVEN 全体をサポートして頂く募金制度です。2011 年は、主に東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」への支援金をお預かりし、復興支援活動費に使わせていただきました。これからも、お預かりしたお金は MAKE THE HEAVEN の活動費及び「め組 JAPAN」の復興支援活動費に使わせていただきます。

詳細は、http://maketheheaven.com/megumijapan/?page_id=16

ワンフェス賛同スポンサー

MAKE THE HEAVENの植林・間伐活動プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」のスポンサー制度です。頂いたお金はワンフェスの活動運営費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ホームページでの広告掲載、記念グッズプレゼントの他、ワンフェスが行った植林・間伐地に設置する記念看板にお名前を入れさせていただきます。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=2>

一元募金

ワンフェスが行っている一元玉の募金制度です。

集まった募金は、ワンフェスが行っている植林活動の苗木代に使わせて頂いています。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=1>

WONDERFUL WORLD 植林
へのサポート

カンボジアへのサポート

パパママ大作戦！カンボジア奨学金

学校に通えないカンボジアの子ども達へ奨学金を贈る、教育里親の支援制度です。一口(1万円)で1人の子どもが、1年間学校に通う事が出来ます。サポートして下さった方に、ご支援頂く我が子(奨学生)の写真付き報告書(奨学金証書)や、カンボジアの我が子本人から手紙が届きます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/02ppmm/01pm/>

My 井戸大作戦

カンボジアで綺麗な水が使えなかったり、遠くまで水を汲みに行っていた地域に、井戸を提供する支援制度です。一口(3万円)で1基の井戸を掘る事が出来ます。完成した井戸には、支援者の皆さまがつけたお名前をプレート、または井戸の看板に描かせて頂きます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/03mydo/01ido/index.html>

くっくま孤児院

笑顔あふれるくっくま孤児院の子ども達を応援する支援制度です。くっくまファミリーとして、お父さんコースお母さんコースなどがあり、サポートして下さった方には、子ども達からお手紙や絵が届きます。

詳細：<http://www.maketheheaven.com/cambodia/ccmha/index.html>

カンボジア支援

カンボジアのスラムや孤児院で生活する子ども達の生活全般を支援する制度です。また、バサックスラムの子ども達に1ヶ月分のお米とおかずを支援する「米まん」「おかずまん」という制度もあり、支援して頂いた方々のお名前をホームページに掲載させていただきます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/05kikin/2bokin.html>

啓発事業へのサポート

2.5 サポート基金

NPO法人 MAKE THE HEAVENが現在製作している映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2.5」のスポンサー制度です。頂いたお金は全額、映画制作費に使わせて頂きます。一口(5,000円)ごとに1枚ずつ、現在映画制作のために取材している方々のインタビュー映像(非売品)をプレゼントさせていただきます。

詳細：<http://maketheheaven.com/form/part2ten5.html>



2011年 会計報告

収支計算書

2011年1月1日～2011年12月31日

収入の部

(単位:円)

1.事業収入	震災支援活動	1,325,400	20,660,663
	映像事業	1,024,000	
	音楽演奏活動	9,393,450	
	カンボジア事業	1,907,961	
	植林・間伐事業	1,843,200	
	洞爺パケーション	2,179,400	
	げんきのたね夢楽	470,652	
	その他事業	2,516,600	
2.会費収入 ※注1			2,239,000
3.寄付金収入 ※注2			133,356,429
4.物品販売収入			35,827,664
5.その他収入 ※注3			4,899,052
当期収入合計			196,982,808
前期繰越収支差額			5,361,752
収入合計			202,344,560

支出の部

(単位:円)

1.事業費	震災支援活動	50,658,737	124,962,356
	映像事業	5,757,089	
	音楽演奏活動	13,843,016	
	カンボジア事業	15,415,376	
	植林・間伐事業	4,058,455	
	洞爺パケーション	24,281,219	
	げんきのたね夢楽	6,547,184	
	その他事業	4,401,280	
2.管理費 ※注4	本部	37,987,573	46,481,160
	カンボジア事務局	8,493,587	
3.為替換算差損			618,729
4.法人税、住民税、および事業税			70,000
当期支出合計			172,132,245
当期収支差額			24,850,563
次期繰越収支差額			30,212,315



貸借対照表

2011年12月31日現在

資産の部

(単位:円)

負債の部

(単位:円)

流動資産	現金	2,431,459	流動負債	未払金	3,520,642
	預金	57,483,450		短期借入金	5,500,000
	売掛金	2,818,889		預り金	1,366,848
	立替金	769,222		仮受金	7,397,719
	未収入金	1,340,375	流動負債合計		17,785,209
	その他	1,128,733	負債合計		17,785,209
流動資産合計		65,972,128	正味財産合計		
固定資産	車両運搬具	1,532,568	(単位:円)		
	工具器具備品	362,828		事業積立金	20,000,000
	敷金	130,000		次期繰越収支差額	30,212,315
固定資産合計		2,025,396	正味財産合計		50,212,315
資産合計		67,997,524	負債及び正味財産合計		67,997,524

注1 会費収入内訳

(単位:円)

正会員	250,000
賛助会員	220,000
マンスリーサポーター	1,769,000
会費収入計	2,239,000

注2 寄付金収入内訳

(単位:円)

メイクザヘブン本部	22,771,571
洞爺パケーション	19,265,279
げんきのたねまきツアー	710,430
げんきのたね夢楽	1,050,000
映画製作	2,285,000
震災支援活動	64,875,987
植林・間伐活動	1,530,917
一円募金(苗木代)	1,288,105
パバママ大作戦	5,104,636
まいど大作戦	3,386,630
御縁募金	5,035
カンボジア支援	5,516,888
くっくま孤児院	5,565,951
寄付金収入計	133,356,429

注3 その他収入内訳

(単位:円)

発送等手数料収入	3,045,170
請求交通費収入	1,115,736
その他収入	738,146
その他収入計	4,899,052

注4 管理費内訳

(単位:円)

給与手当	15,074,258
仕入高	12,354,420
運賃	5,310,531
旅費交通費	2,699,395
地代家賃	1,640,068
印刷製本費	1,585,815
支払手数料	1,398,067
減価償却費	721,104
その他	5,697,502
管理費計	46,481,160

監査報告書

特定非営利活動法人MAKE THE HEAVENの2011年度決算について、事業は適切に実施され、また、収支計算書及び貸借対照表は、経営状況及び財政状態を適正に表示しているものと認めます。

2012年 3月 10日

監事 二瓶 明 (印)